科目名	環境化学	英語科目名	Environmental Chemistry		
開講年度・学期	平成23年度・後期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年		
授業形態	講義	必修 or 選択	選択		
単位数	2単位	単位種類	学修単位		
担当教員	西井圭	居室(もしくは所属)	電気物質棟4階		
電話	0285-20-2806	E-mail	k.nishii@oyama-ct.ac.jp		
	0200 20 2000		授業達成目標との対応		
授業の達成目標			小山高専の		JABEE 基準
IXXIV XEIXI IX			教育方針	目標(JABEE)	
			(1)	C - 1	d(1)
			<u>2</u>		d (2-a)
2. 太陽光の化学的利用と環境化学について理解し,該		説明できる.	<b>&amp;</b>		u (z-a)
3. 環境保全を目的とした水素エネルギーの利用につい		ハて理解し,説明できる.			g
4. 環境に調和した有機	合成について理解し、具体例	を挙げて説明できる.			
	子材料の合成と応用について				
□ 5. 現場に調削しに高力	一十分科の音成と応用について	生胜し、説明できる.			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法					
達成目標1~5:中間・期末試験において評価する.60%以上の成績で達成とする.					
評価方法					
1. 2回の定期試験(中間・期末:80%)					
2. 提出物(20%)		1		·	
授業内容		授業内容に対する自学	自習項目		自学自習時間
1. 地球環境の特徴と環境化学		講義中の復習および講義中に指定された予習項目につ			4
		いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			
2. 太陽光の科学的利用と環境保全(1)		講義中の復習および講義中に指定された予習項目につ 4			
		いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			
3. 太陽光の科学的利用と環境保全(2)		講義中の復習および講義の		予督項目につ	4
4. 環境にやさしい水素エネルギー (1)		いてA4用紙1枚にまとめ		マ羽花ロにつ	4
		講義中の復習および講義中に指定された予習項目につ 4 いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			
5. 環境にやさしい水素エネルギー (2)			4円紙「仪にまとめて提出する。 の復習および講義中に指定された予習項目につ 4		
		いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			4
		講義中の復習および講義「		予習項目につ	4
		いてA4用紙1枚にまとめ		) BALL >	-1
7. 環境に調和した有機合成化学(2)		講義中の復習および講義の	- 11-4	予習項目につ	4
		いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			
後期中間試験					
8. 環境にやさしいフッ素テクノロジー (1)		講義中の復習および講義。	中に指定された <sup>:</sup>	予習項目につ	4
		いてA4用紙1枚にまとめて提出する.			
9. 環境にやさしいフッ素テクノロジー (2)		講義中の復習および講義中に指定された予習項目につ 4			4
		いてA4用紙1枚にまとめ	て提出する.		
10. 環境にやさしい高分子材料(1)		講義中の復習および講義。	中に指定された	予習項目につ	4
11. 環境にやさしい高分子材料 (2)		いてA4用紙1枚にまとめ			
		講義中の復習および講義中に指定された予習項目につ 4			
		いてA4用紙1枚にまとめ	て提出する.		
12. 無尽蔵の資源からつくる高分子(1)		講義中の復習および講義の		予習項目につ	4
10 mp#o/g/E/ > - / 2 = / 2		いてA4用紙1枚にまとめ		<b>-</b>	
13. 無尽蔵の資源からつくる高分子 (2) 14. エコフレンドリーな着色・画素形成技術		講義中の復習および講義の		予省項目につ	4
		いてA4用紙1枚にまとめ		<b>ਕੂ</b> ਹਰ ਦ≭ ਵਾ / − − −	
		講義中の復習および講義に		ア省項目につ	4
15. 生体関連技術、先端無機材料技術		いてA4用紙1枚にまとめ 講義中の復習および講義。		<b>美型頂口につ</b>	4
10. 工件内足到例,几端常仅仅有代别		講義中の復省おより講義		ドロ州日にフ	4
		しいしみ4円孤1枚によどの	) (延山りる.		
P>1/41/415   JR4447			白学白	習時間合計	
キーワード	地球環境 光エネルギー	水素エネルギー,燃料電池,有機合成,合成高分子			
教科書	『環境にやさしい21世紀の化学』NTS,安保正一・水野一彦				
『地球環境化学入門』シュプリンガー,渡辺正訳					
カリキュラム中の位置づけ					
前年度までの関連科目		有機化学,生物化学,			
現学年の関連科目		生物資源工学,高分子	材料		
次年度以降の関連科目					
連絡事項					
1. 定期試験は2回,90分間で行う.					

- 2. 個人的な欠席理由による補講は行わない.
- 3. 科学分野の技術者にとって必要な知識なので興味をもち新聞等の環境に関したニュースに目を通すこと.
- 4. 講義内容で質問などあれば、講義時間以外でも相談に応じる. シラバス作成年月日 平成23年2月16日